

# SAICM国内実施計画についての 市民アンケートの結果概要

熊本学園大学 社会福祉学部 教授  
中地 重晴

# 調査の概要

実施主体：有害化学物質削減ネットワーク

実施方法：2018年11-12月、せっけん運動ネットワーク加盟生協に協力を依頼、2000票配布。1257票回収（回収率-62.9%）

女性、96.4%、男性、3.6%

20歳代、1.0%、30歳代、22.9%、40歳代、42.0%、50歳代、20.9%、60歳代、10.1%、70歳代以上、3.2%

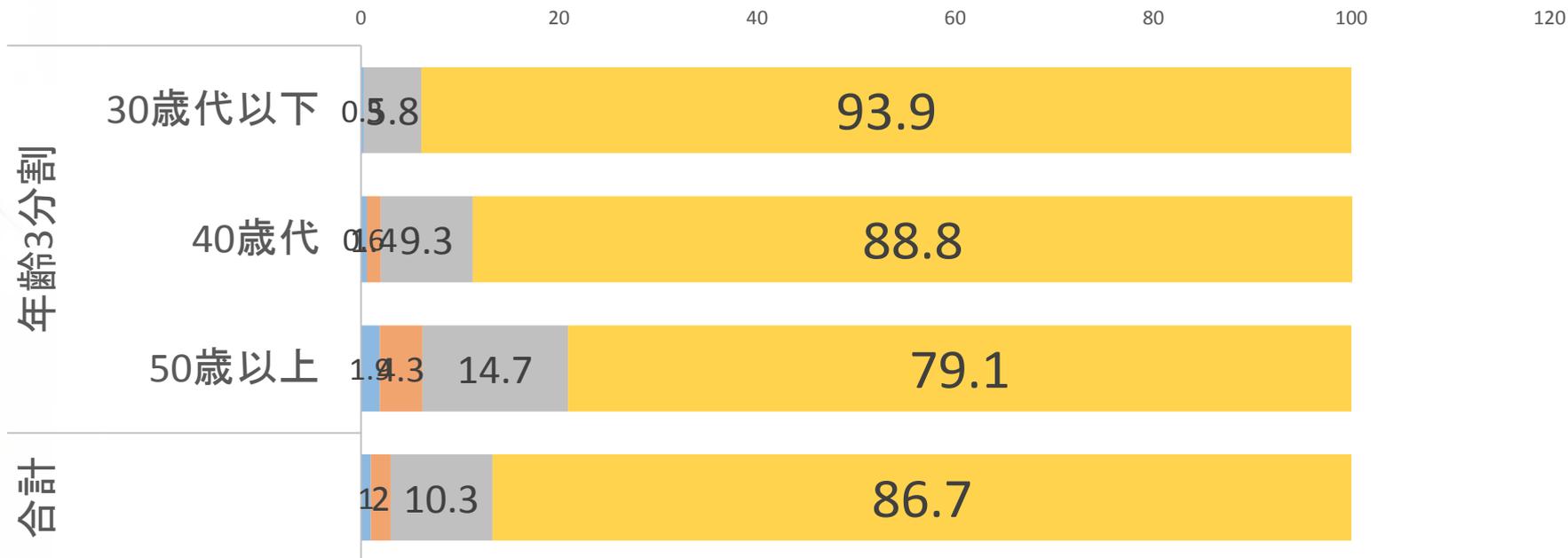
集計は、20-30歳代（33.9%）、40歳代（42.0%）、50歳以上（34.2%）に3分割

平成30年度地球環境基金の助成を受けています

# 知られていないSAICM、GHS、PRTR

SAICMの「化学物質管理に関する2020年目標」(「2020年までに化学物質のリスクを最小化する」)を知っていますか。

中高年には知っている人が相対的に多い

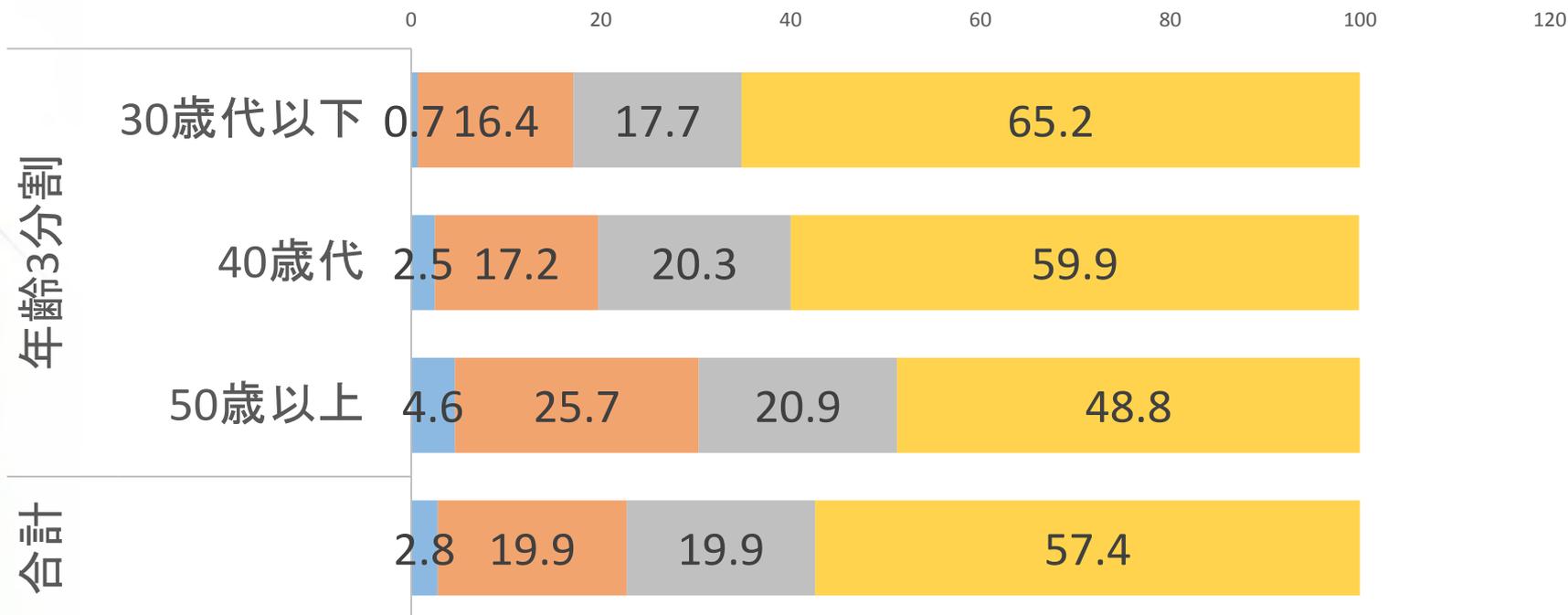


- 大体知っている
- 多少は知っている
- 聞いたことはある
- 知らなかった

# GHS制度の認知は半数弱にとどまる



GHS有害性共通マーク表示制度知っているか



- 大体知っている
- 多少は知っている
- 聞いたことはある
- 知らなかった

# 家庭用品の成分表示について、今後どのようにしていけばよいか

1. 表示方法を**統一**すべき 66.5
2. 市民が**理解**できるような**表示**にすべき 88.1
3. インターネット等で内容や毒性等を調べられるようにすべき 44.9
4. ○○剤などでなく、**具体的な成分**を表示すべき 52.0
5. 表示を義務づける製品や化学物質を**広げるべき** 57.1
6. **すべての製品**について、メーカーに成分の情報公開を義務づけるべき 64.7
7. 苦情や相談窓口を設けるべき 32.8
8. その他(具体的に「使用者側に立って製品の危険性を正直に表示してください」、「規制を強めて欲しい」、「客観的にわかりやすい説明を」) 4.6

# PRTR制度で公開されている排出データ等を見たことがあるかー「ない」80.3%

1. 国（環境省など）のホームページで見たことがある 5.6
2. Tウオッチのホームページで見たことがある 2.9
3. エコケミストリー研究会のホームページで見たことがある 0.7
4. 自治体のホームページで見たことがある 2.0
5. 企業のホームページで見たことがある 2.1
6. その他のホームページで見たことがある（具体的に 0.7）
7. 環境省の「市民ガイドブック」で見たことがある 10.0
8. 自治体作成のチラシ、パンフレット等で見たことがある 4.3
9. まだ見たことがない 80.3

## 事故時、災害時の対応計画に不信感も

自治体は、事故時、災害時の対応計画を作成していると思うか

1. 十分していると思う 1.5
2. ある程度はしていると思う 34.2
3. していると思うが不十分である 22.4
4. しているとは思いますが内容はわからない 32.3
5. しているとは思わない 9.7

企業や工場は、事故時、災害時の対応計画を作成していると思うか

1. 十分していると思う 1.1
2. ある程度はしていると思う 30.6
3. していると思うが不十分である 25.1
4. しているとは思いますが内容はわからない 35.1
5. しているとは思わない 8.1

化学物質のリスクについて、今後市民にどのように知らせていくべきだと思いますか

化学物質のリスクについて、今後市民にどのように知らせていくべきだと思うか

1. 学校教育に取り入れる 80.4
2. 自治体等が説明会を開催する 45.7
3. パンフレット等を各家庭に配布する 64.9
4. 相談窓口を設ける 34.8
5. インターネット等で内容や毒性等を調べられるようにすべきだ 55.4
6. その他(具体的に 4.1 )
  - 「製品自体に大きく表示する、タバコの箱のように」
  - 「消費者、住民がもっと関心を持つ」
  - 「身近には洗剤、柔軟剤のリスクを知らないで使用している方が多すぎる」



## まとめ～有害化学物質のリスク削減のために

- 製品中にどんな化学物質が含まれているのか、それらにはどのような有害性があるのかといった、消費者が一番知りたい点について、法の不十分性もあり**情報**がきわめて不足⇒「GHSマーク」の一般化や「PRTR情報」の活用により市民のリスク・リテラシーの底上げが課題
- 東日本大震災を機に、**防災、減災**を地元の工場などでの有害化学物質削減の大きな動機づけにしていく必要性あり
- 慢性的長期的で**「灰色」**の有害化学物質リスクは、禁止や規制がむずかしい。**「予防原則」**、**「代替原則」**を市民の共通認識として世論を高め、全体として削減していくことが必要